

運動遊びプロジェクトJUMP-JAM(ジャンジャン)

受賞者

一般財団法人 児童健全育成推進財団 (東京都渋谷区)

取組アクション











▶ 運動習慣のない子どもも楽しめる運動遊びプログラム

背景・概要

子ども時代の主体的な運動遊びの体験機会を創出・提供することは、子どもの今日的な福祉課題の改善とともに、生涯にわたる運動習慣や健康寿命につながるものと考え、児童健全育成推進財団では、スポーツ用品メーカーであるナイキとのパートナーシップのもと、スポーツでも遊びでもない、子どもの可能性を引き出す運動遊びプログラム[JUMP-JAM]を開発し、東京都内の児童館を拠点に普及を行っている。



↑東京都内の児童館での実施の様子

取組内容

- ●楽しみながら自然に体を動かす運動遊びプログラム 子どもたちが運動遊びの楽しさを享受し、幸せで健康的な人生を歩むための自己肯定感や社会的スキルを養う観点から、勝ち負けだけにこだわらず、遊びの中で自然に楽しく体を動かすことや仲間と一緒に課題を解決して達成感・協調性を獲得できるプログラムを、干葉工業大学の引原有輝教授(東京都「子供の体力向上専門家会議(分析部会)」委員)の監修により開発。子どもの人数や年齢、場所の広さに適したゲームを実施し、体力・敏捷性・筋力・運動能力とともに、自主性・社会性・創造性・情操を高めていくことを重視して実施している。
- ●児童館職員がプログラムを実施 プログラムの実施に際しては、トレーニングを 受けた児童館職員がスタッフとして関わる。トレーニングにおいて、子どもたちが チームワークや問題解決能力、基礎運動能力を遊びを通して楽しみながら高めてい けるよう配慮するとともに、子どもの心理面にも着目した実施方法を習得している。



↑イベント等で多くの子どもたちが体験



◆児童館職員を対象にしたトレーニング

成果

- ●約3年半で2万8,000人の子どもが参加 2017年当初は東京都内の児童館10カ所で 事業をスタート。2021年時点で116カ所に拡大し、実施回数・参加人数はのべ1,000回・2万8,000人超。
- ●高い女子参加率。9割超の子どもたちがポジティブな評価 主な対象は7歳から12歳の小学生で、参加者の内訳は低学年が約7割、高学年が約3割。中学生が参加することもあり、異年齢交流の機会にもなっている。また、日本では男子より女子が運動しない傾向にあるとされているが、このプログラムの参加児童の約4~5割が女子となっている。また、参加した子どもたちへのアンケートでは、94%が「楽しい」と回答。学年や性別、体力差、運動習慣の有無に関係なく参加できることや、子ども自身で遊び方などをアレンジできることなどが、楽しさにつながっていると考えられる。

評価委員による講評:下光 輝一

幼少期にある子どもたちに主体的な運動遊びの体験を創出・提供することは、生涯にわたる運動習慣や健康状態の維持につながります。児童健全育成推進財団は、スポーツ用品メーカーであるナイキとのパートナーシップのもとで、体力・敏捷性・筋力・運動能力だけでなく、社会性・自主性・創造性・情操などを高めることを目的として、自然に楽しみながら体を動かす「運動遊びプログラム」を開発し、東京の児童館を拠点として普及を行っています。本プログラムは自己肯定感や社会的スキルを養いながら勝ち負けにこだわらないで楽しく遊ぶことを重視しているために、これまで運動を苦手としていた運動嫌いの子どもたちも数多く楽しみながら参加していることが特色です。また、女子の参加率も高く男女を問わず親しみやすく参加しやすいプログラムとなっており、実施回数は1,000回を超えのベ2万8,000人の子どもたちが参加しており実績も十分です。今後、本プログラムが全国に普及し展開されることが期待されます。